

食品衛生検査所事業概要

平成30年度



横浜市中心卸売市場

本場食品衛生検査所

はじめに

平成 30 年 6 月の食品衛生法改正により「HACCP の考え方を取り入れた衛生管理手法」が制度化され、中央卸売市場においても流通段階による HACCP の衛生管理手法がスタートしています。農水産物は産地から消費者まで、加工食品は製造者から消費者まで、流通段階の市場を含め、販売者を経て消費者に届くまで一貫した品質管理が求められる時代です。横浜市中心卸売市場内での HACCP による低温流通等、一層の衛生管理を推進させ、品質向上を図るとともに、今後も市場を流通する食品の収去検査により、違反食品等の排除をおこなってまいります。また、平成 27 年に中央卸売市場として幕を閉じました南部市場がランチ横浜南部市場としてリニューアルオープンしました。これからも本場市場の補完施設として、物流ゾーンの衛生管理を手掛けてまいります。

さて、このような HACCP の取組みがスタートしている中、アニサキスやカンピロバクター等による食中毒が多数発生していたり、また、農産物の残留農薬が基準を超過したり、アレルギー物質を含む旨の表示が欠落していて当該食品の回収等の措置がされているケースが毎日のように報じられています。さらに、人畜共通の感染症ではありませんが、豚コレラによる防疫活動が大きく報道され、市民の「食の安全、安心」に対する関心の高さが伺えます。

このような「食の安全、安心」に対する声を受け、横浜市中心卸売市場食品衛生検査所では「食の安全、安心」を確保するために「平成 30 年度横浜市中心卸売市場食品衛生監視指導計画」に基づいて監視指導ならびに収去検査を実施いたしました。

ここに私たちが取組みました結果を「平成 30 年度事業概要」として、まとめましたので、ご高覧いただければ幸いです。

令和元年10月

横浜市中心卸売市場
本場食品衛生検査所長 鳥海正次

目 次

第1 総説

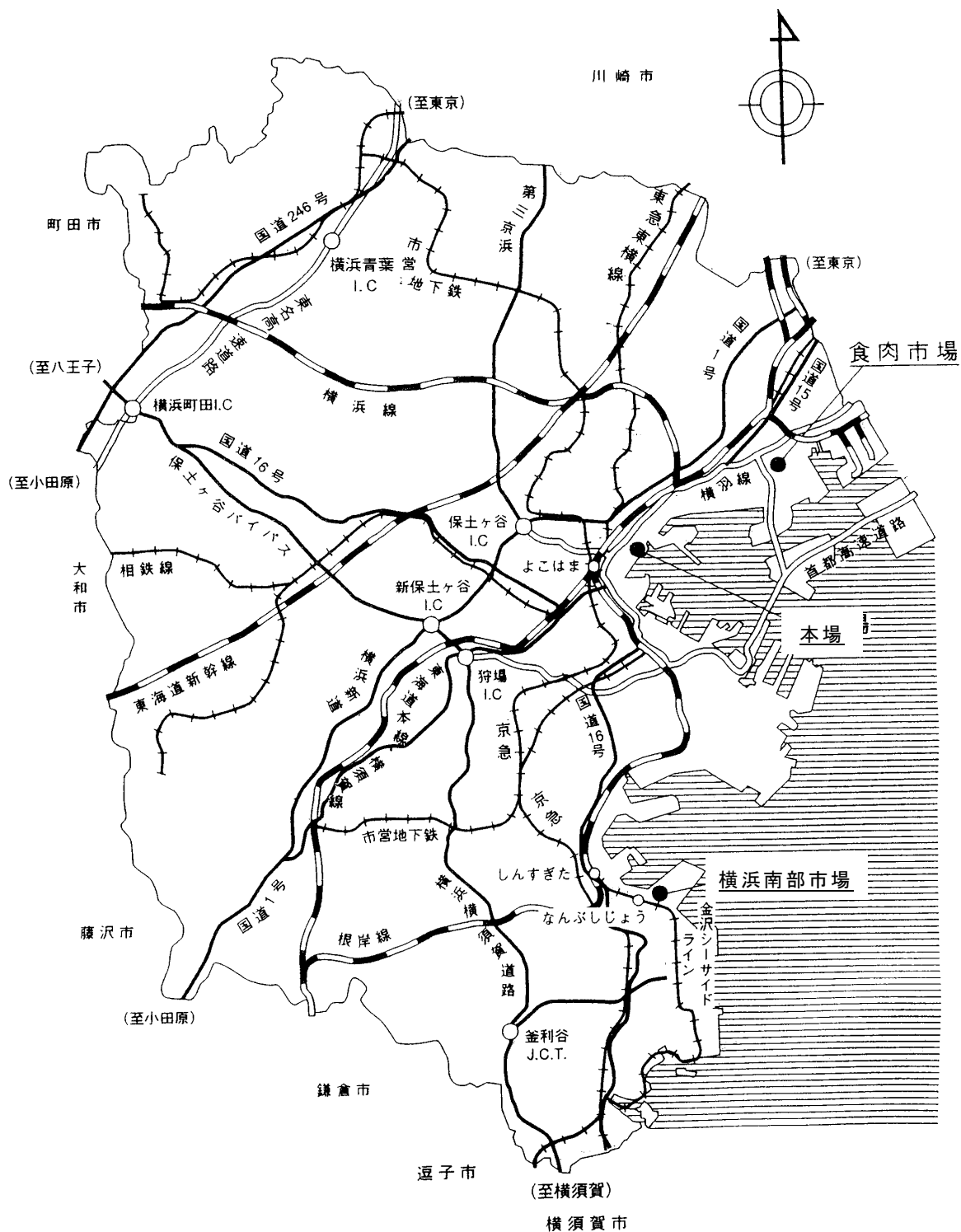
1 沿革	1
2 市場の概要	2
(1) 面積	2
(2) 取扱量の推移	2
(3) 場内業者の内訳	3
3 市場及び検査所平面図	4
(1) 中央卸売市場本場	4
(2) 横浜南部市場	5
4 横浜市における市場食品衛生検査所の位置づけ	6
5 検査所職員内訳	6
6 検査所の業務について	7
7 主要試験検査機器一覧	8

第2 業務実績

1 業務実績	11
2 平成30年度主要業務一覧	14
3 平成30年度監視業務実績	16
4 平成30年度食品別検査状況	17
5 食品分類別・項目別検査状況	
(1) 理化学検査実施項目数	18

(2) 細菌検査実施項目数	19
(3) 食品中の放射性物質	20
(4) 残留農薬	27
(5) 動物用医薬品(抗生物質、合成抗菌剤、ホルモン剤、内寄生虫用剤等)	32
(6) 水銀	33
(7) PCB	34
(8) 貝毒	35
(9) ふぐ毒	35
6 違反食品等一覧	36
7 相談対応	36
8 衛生教育実施結果	37
9 その他の業務	37
～市場食品衛生検査所関係年表～	38

横浜市中心市場等位置図



第1 総説



本場全景

平成31年4月1日現在



横浜南部市場
全景

平成30年4月1日現在

1 沿革

- 昭和6年 中央卸売市場本場開場(市人口65万人、対象100万人)。
- 昭和22年2月 神奈川県が横浜市内に中央卸売市場監視室を設置、食品衛生監視員2名が 駐在。
- 昭和25年4月 横浜市に食品衛生事務が委譲される。
- 昭和25年5月 神奈川保健所分室食品衛生検査室発足、同保健所から食品衛生監視員4名を派遣駐在。
- 昭和45年9月 衛生局公衆衛生課所轄の食品衛生検査所となる(8名配置)。
- 昭和48年 10名配置となる。
- 昭和48年10月 中央卸売市場南部市場食品衛生検査所設置。
- 昭和48年11月 中央卸売市場南部市場開場、同時に南部市場食品衛生検査所業務開始(6名配置)。
- 昭和49年 南部市場食品衛生検査所10名配置となる。
- 昭和53年4月 14年計画の「本場再整備事業」開始。
- 昭和60年1月 同計画の一部が終了、本場食品衛生検査所新庁舎完成。
- 昭和61年6月 中央卸売市場本場食品衛生検査所が衛生局保健部所轄となる。
同所長が行政権限の大幅な委任を受けるとともに、南部市場食品衛生検査所を統轄。
- 平成2年6月 機構改革にともない衛生局保健部が分割され、生活衛生部が設置される。
生活衛生部所轄となる。
- 平成5年7月 本場食品衛生検査所に食品監視機動班(3名)が設置される。
- 平成6年7月 機構改革にともない、南部市場食品衛生検査所が課制となり、生活衛生部所轄となる。
- 平成11年4月 機構改革にともない、本場食品衛生検査所内の機動班が廃止され、新たに食品専門監視班として食品衛生課に設置される。
- 平成18年4月 機構改革にともない、健康福祉局健康安全部所轄となる。
- 平成19年4月 機構改革にともない、健康福祉局健康安全部が市保健所を兼ねる。
- 平成27年3月 中央卸売市場南部市場の中央卸売市場としての廃止とともに、南部市場食品衛生検査所を閉所。本場食品衛生検査所と統合。

2 市場の概要

(1) 面積

用 途	本 場
敷 地 面 積	115,843平方メートル
建 物 延 面 積	131,789平方メートル
卸 売 部	17,903平方メートル
青 果 部	10,835平方メートル
水 産 物 部	5,458平方メートル
鳥 卵 部	260平方メートル
(低 温)	(1,350平方メートル)
仲 卸 部	4,599平方メートル
青 果 部	1,599平方メートル
水 産 物 部	2,960平方メートル
関連棟事業者店舗	1,926平方メートル
倉 庫	1,433平方メートル
冷 蔵 庫	10,571平方メートル
配 送 セ ン タ ー	5,460平方メートル
駐 車 場 (台 数)	1,936台

(平成31年4月1日現在)

備考)施設面積は、使用指定・許可面積。卸売部の低温は卸売部の青果部と水産物部の一画。

(2) 取扱量の推移

単位(トン)

取扱部門	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
本場青果	359,915	371,573	354,942	352,329	351,994
本場水産	46,834	57,435	64,156	58,114	53,468

取扱部門	平成26年度
南部市場青果	109,325
南部市場水産	15,711

(平成31年4月1日現在)

南部市場は平成27年4月以降、市場外指定保管場所、市場外施設として卸売業者・仲卸業者・売買参加者が本場で取引した物品の受け渡しを行い、本場を補完する加工・配送、流通の場として活用されています。

・市場外指定保管場所 (卸売市場法第39条、横浜市中心卸売市場業務条例第42条)

卸売業者からの申請に基づき市長が市場外指定保管場所として指定します。市場外指定保管場所とは、産地から物品を、市場を経由しないで直接受け渡しできる場所です。

・市場外施設 (横浜市中心卸売市場業務条例第49条)

仲卸業者は開設者に届け出れば、市場外に貯蔵・保管・仕分け・配送等の場所を設置することができます。市場外施設では、買い手から注文があった物品を受け渡すことができます。

(3) 場内業者の内訳

本場市場内卸業者	卸売業者数	仲卸業者数
水産物部	2	61
青果部	2	29
鳥卵部	1	0
合 計	5	90

(平成31年4月1日現在)

本場市場内関連事業者	業者数
食料品卸売業	11
買荷保管業	1
運送業	3
倉庫業	2
加工業	2
飲食営業	13
必需品販売業	4
金融業	1
理容業	1
合 計	38

(平成31年4月1日現在)

食品衛生法による分類

営業の種類	本場件数	南部市場件数
飲食店(自動販売機)	0	3
飲食店(その他)	23	17
菓子製造業	1	0
魚介類販売業	107	51
魚介類せり売営業	2	0
魚肉ねり製品製造業	1	0
食品の冷凍又は冷蔵業	13	10
喫茶店(自動販売機)	14	5
喫茶店(その他)	1	0
乳類販売業(自動販売機)	3	2
乳類販売業(その他)	5	5
食肉処理業	1	1
食肉販売業	17	9
醬油製造業	0	1
そうざい製造業	7	2
ソース類製造業	0	0
冰雪製造業	1	0
冰雪販売業	1	1
魚介類行商	6	10
魚介類加工業	9	7
発酵乳等販売業	1	1
事業所給食施設	1	0
野菜果物販売業	43	31
菓子販売業	1	11
食品販売業	37	28
食品製造業	6	3
そうざい販売業	1	9
弁当類販売業	1	2
酒類販売業	0	2
器具・容器包装・おもちゃ製造	4	5
合 計	307	216

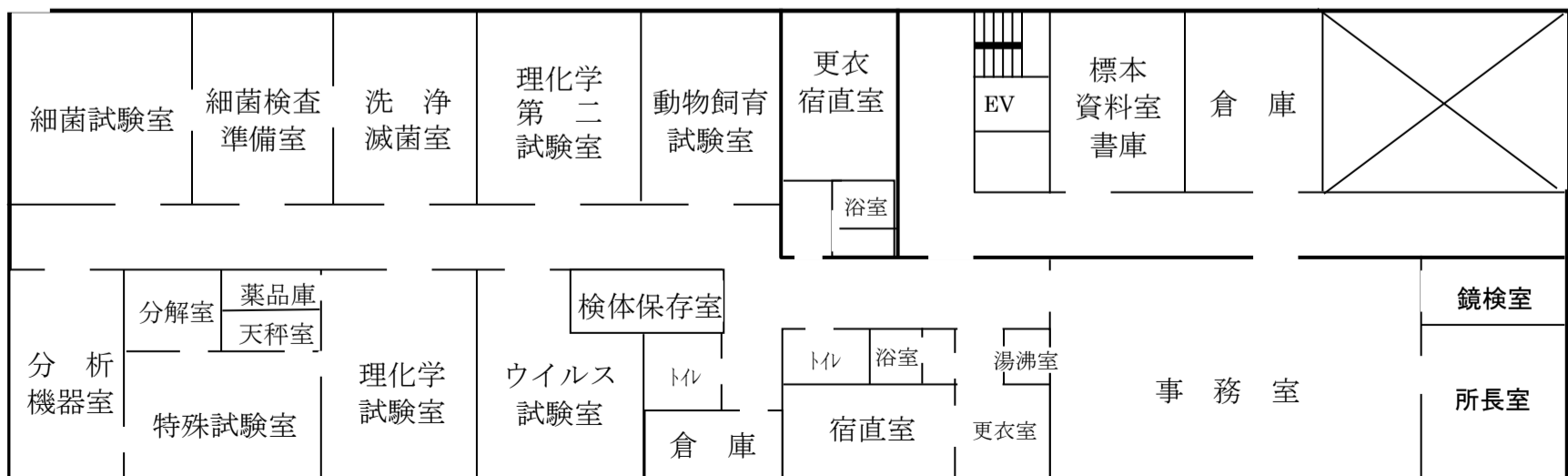
(平成31年4月1日現在)

3 市場及び検査所平面図

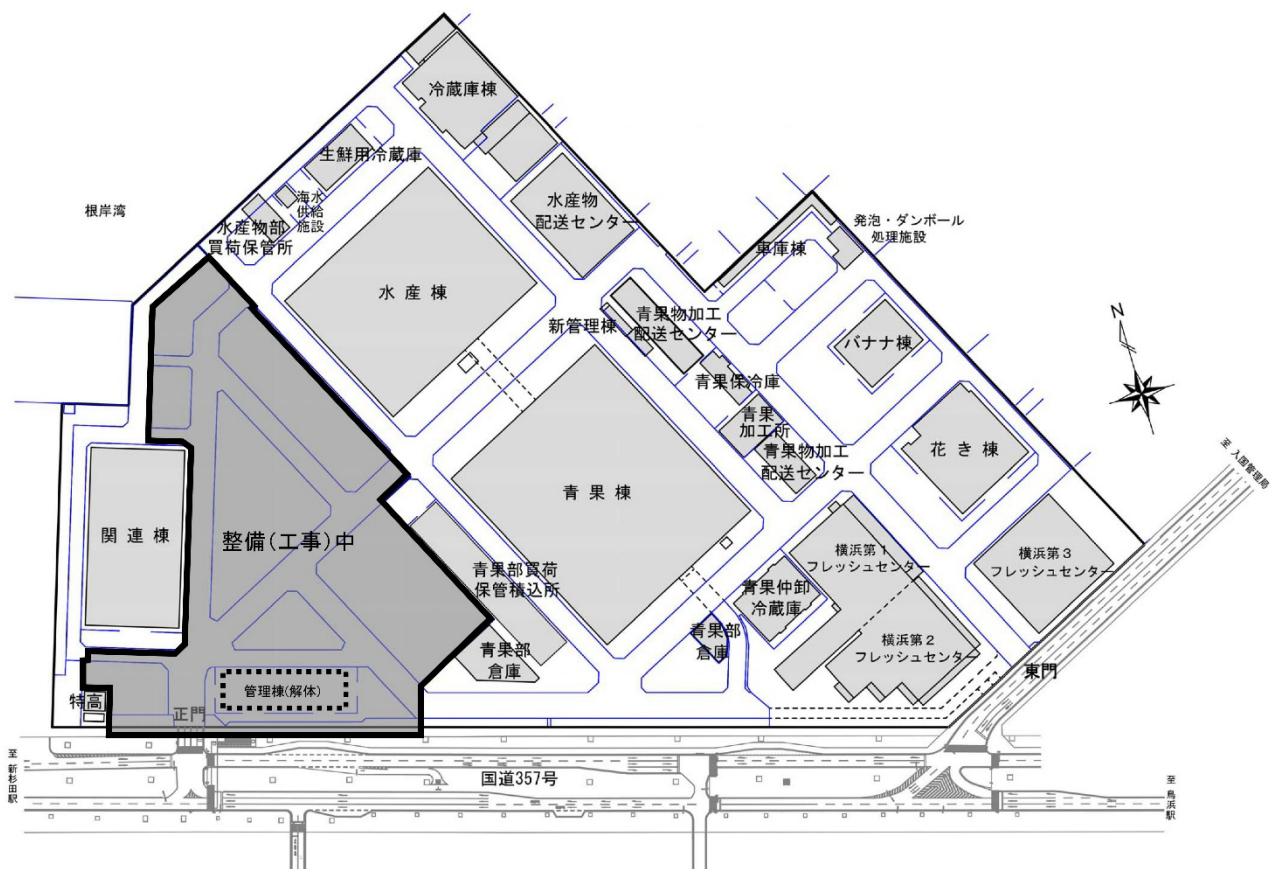
(1) 中央卸売市場本場 平面図



中央卸売市場本場食品衛生検査所 総面積744.0㎡



(2) 横浜南部市場 平面図



平成 31 年4月1日現在

～横浜南部市場にぎわい創出事業～

平成 27 年 3 月 31 日をもって中央卸売市場としては廃止した南部市場は、本場を補完する加工・配送、流通の場として活用する「物流エリア」と、公募事業者の提案、整備により活用する「賑わいエリア」に分け、事業を進めます。

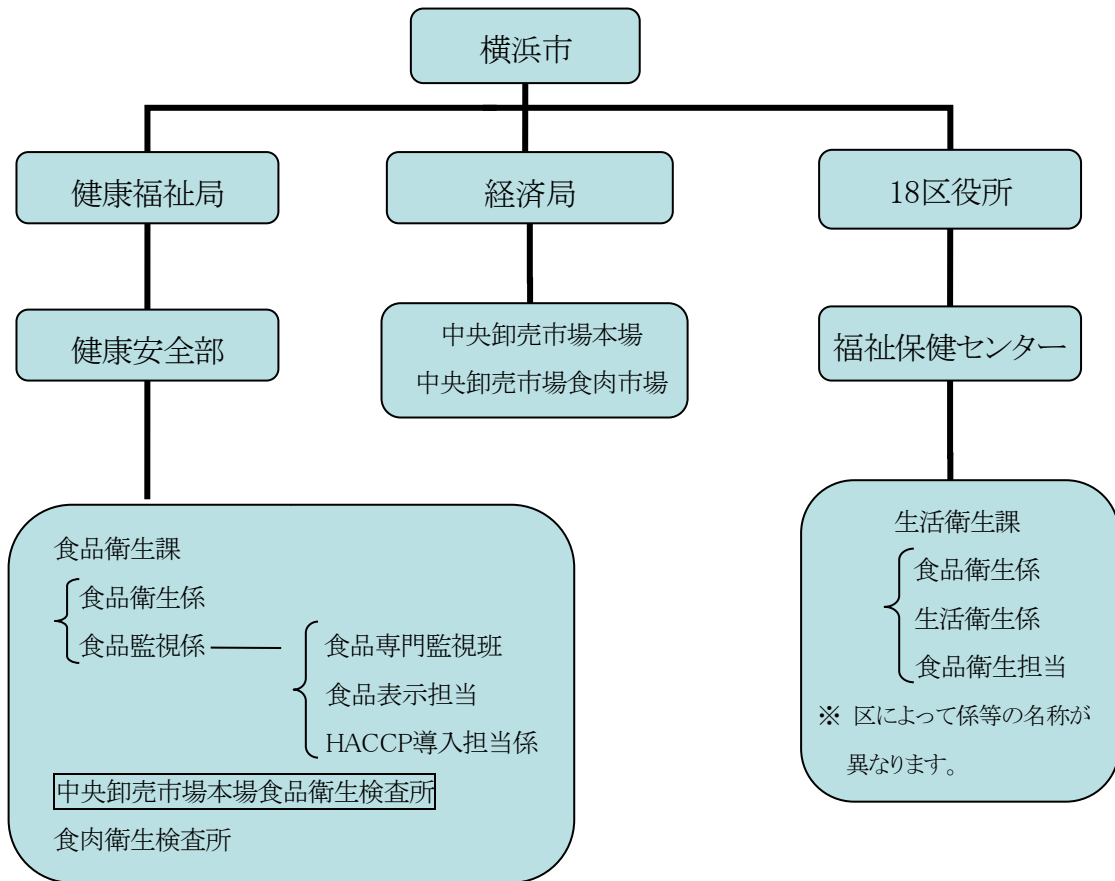
昭和 48 年の開設以来 40 年以上地元で生鮮食料品を供給してきた特性を活かした集客施設の建設により、市場・地域の活性化を図ることを目指し、令和元年 9 月に新たな商業施設がオープンします。



4 横浜市における市場食品衛生検査所の位置づけ

横浜市には、中央卸売市場として本場、食肉市場があり、いずれも横浜市経済局が運営しています。

これらの市場には、それぞれ食品の衛生確保を図るために食品衛生検査所等(以下「検査所」という。)が設置され、各市場を経由し市中に流通する食品の検査を行っています。検査所は、横浜市健康福祉局健康安全部に属しており、食品の安全・衛生を確保する各区の福祉保健センターと連携して市場内の監視と検査を分担しています。



5 検査所職員内訳

総数	所長	係長	食品衛生監視員	事務
15	1	2	11 (うち細菌検査室5理化学検査室6)	1

(平成31年4月1日現在)

6 検査所の業務について

現在、早朝勤務と通常勤務の二体制で業務を行っています。

(1) 早朝勤務

「せり」の前に、せり場において監視指導及び収去を行っています。

2名一組で週3～4回実施しており、検査所における収去の大部分はこの早朝勤務で行っています。

せり終了後は仲卸業者、関連業者に対して監視指導を行っています。

早朝勤務の主な業務内容は次のとおりです。

- ア 食品等取扱の監視及び指導
- イ 食品等の表示点検
- ウ 貝類等が各種規制に適合しているかの調査
- エ 有毒魚等の排除
- オ 食品の収去

(2) 通常勤務

始業時のミーティングにおいて、早朝勤務の報告や一日の方針などの打合せを行った後、場内巡回による監視指導等を行い、検査業務に移ります。

通常勤務の主な業務内容は次のとおりです。

- ア 仲卸業者、関連業者、行商作業場その他場内全般について、前記(1)ア～オの業務
- イ 場内関係者との打合せ及び各種業務連絡
- ウ 検査業務
 - (ア)細菌検査
 - (イ)理化学検査
 - (ウ)病理寄生虫検査
- エ 検査成績書の作成・交付
- オ 違反品・不良品等の処理
- カ 苦情・各種衛生相談等問合せの処理
- キ 場内店舗の許可調査
- ク 講習会等の開催

7 主要試験検査機器一覧

(1) 細菌検査室

品名	数量
電気ふらん器	7
嫌気性培養装置	1
超音波洗浄器	1
顕微鏡	2
顕微鏡撮影装置	2
ストマッカー	2
システムダイリューター	4
ホモジナイザー	2
冷蔵庫(培地保存用)	5
冷凍庫(試薬・検体保存用)	2
高圧滅菌器(ガス式)	3
高圧滅菌器(電気式)	4
ウォーターバスインキュベーター	2
乾熱滅菌器	2
電子上皿天秤	2
超音波ピペット洗浄器	2
ウォーターバス	2
コロニーカウンター	3
ドライイングシェルフ	1
試験管ミキサー	4
純水製造装置	1
オートデシケーター	2
クリーンベンチ	1
高速遠心分離器	2
PCR用機材一式	1
Real-Time PCR用機材一式	1
超低温フリーザー	1
pHメーター	1

(2) 理化学検査室

品名	数量
超高速ホモジナイザー	4
試験管ミキサー	1
フードプロセッサー ロボクープミキサー	1
フードプロセッサー クイジナートミキサー	1
トリオブレンダー	2
電子上皿天秤	5
天秤台(除振台)	2
超音波ピペット洗浄器	1
マッフル炉	1
電気定温乾燥器	2
ボトルキャビネット	6
デシケーター	3
薬用冷蔵庫	2
冷凍冷蔵庫	1
フリーザー	1
アスピレーター	3
吸引マニホールド	3
遠心分離器	2
シェーカー	1
ロータリーエバポレーター	6
コンプレッサー	1
低温循環水槽	3
水蒸気発生装置	3
超音波洗浄器	2
生物環境調節装置	1
ガラス電極 pH メーター	1
分光光度計	1
水銀分解装置	1
水銀分析装置	1
紫外線照射器	2
過酸化水素計	1
ガスクロマトグラフ質量分析計	1
高速液体クロマトグラフ	2
高速液体クロマトグラフ質量分析計	2
シンチレーションサーベイメータ	1
ガンマ線核種分析システム	1
スーパーシールド遮へい缶	1

(3) 病理・寄生虫検査室

品名	数量
顕微鏡	1
実体顕微鏡	1
顕微鏡撮影装置	1

(4) その他

品名	数量
冷蔵庫	1
冷凍庫	5
スライドプロジェクター	1
赤外線温度計	6

第2 業務実績



細菌検査業務

理化学検査業務



監視業務

1 業務実績

(1) 監視指導業務

中央卸売市場本場食品衛生検査所では、早朝監視及び通常監視を行っています。早朝監視は、せり売り開始前の午前3時すぎから2名の食品衛生監視員が、有毒有害魚介類及び違反・不良食品の排除並びに生食用貝類の温度測定等を行っています。通常監視は、せり売りされた食品が仲卸店舗や市場内外の関連施設に移動した段階で、これら食品の取扱い及び保管状況等の監視指導を行っています。

平成30年度は、両市場内523施設に対し、延べ13,930件の監視指導を実施しました。(P.16)

毎年、高温多湿となる6月1日から8月31日までを『夏期食品等一斉点検期間』、食品の流通量が増加する11月1日から12月30日までを『年末食品等一斉点検期間』に設定し、食中毒の予防、不良食品の排除及び適正表示の徹底を目的とした、監視指導及び収去検査を実施しています。

平成30年度の主要業務(P.14～15)

(2) 検査業務

平成30年度の中央卸売市場本場における農産物の年間取扱量は、約35万トン、水産物は約5万トンでした。(P.2)

これらの食品について、月別、品目別に年間計画に基づき、理化学検査及び細菌検査を行いました。1,779検体の食品等を収去し、理化学検査を30,663項目、細菌検査を3,813項目、表示検査を613項目、計35,089項目の検査を実施しました。なお、魚介類のPCBの検査については、市衛生研究所に検査を依頼して実施しました。

また、市内のスーパー等で販売されているそうざい、洋生菓子や各種食品製造工場の製品等について、福祉保健センター及び食品専門監視班から理化学検査3,971項目、細菌検査872項目、計4,843項目の検査を実施しました。

この他、信頼性確保のための精度管理115項目の検査を実施しました。

(P.17)

ア 理化学検査

(ア) 食品添加物

保存料、着色料、発色剤等の食品添加物が適正に使用され、かつ適正に表示されているか、検査を実施しました。(P.18)

(イ) 放射性物質

福島原発事故の影響を受けて、市内を流通する食品中の放射性物質の核種分析検査を実施しています。市場流通水産物140検体、農産物30検体、量販店等流通販売品42検体、学校給食食材5検体の検査を実施しましたが、基準値を超えるものはありませんでした。(P.20～28)

(ウ) 残留農薬

およそ280種の農薬について残留農薬検査を実施しました。国産農産物117検体(場内流通品103検体、センター依頼品14検体)、輸入農産物17検体の検査を実施し、残留基準値を超えるものはありませんでした。(P.29～32)

(エ) 動物用医薬品(抗生物質、合成抗菌剤、ホルモン剤、内寄生虫用剤等)

魚介類、鶏卵など計51検体について検査を実施しましたが、基準値を超えるものはありませんでした。(P.33)

(オ) 水銀

魚介類 55 検体の検査を実施しましたが、暫定的規制値を超えるものはありませんでした(P.34)

(カ) PCB

魚介類 10 検体の検査を実施しましたが、暫定的規制値(遠洋沖合魚介類 0.5ppm、内海内湾魚介類 3ppm)を超えるものはありませんでした。(P.35)

なお、ppm とは検体 1 kgあたりに含まれる農薬のmg数のことを言います。

(キ) 貝毒

二枚貝が毒化する時期等の情報に基づき、二枚貝 32 検体の検査を実施しましたが、麻痺性貝毒(規制値 4MU/g 以下)、下痢性貝毒(規制値 0.16 mg OA 当量/kg 以下)について、規制値を超えるものはありませんでした。(P.36)

なお、MUとはマウスユニットの略で、貝およびフグ等様々な毒素の影響量に対する単位のことを言います。また、OAとはオカダ酸当量の略で、測定で得られたオカダ酸、ジノフィストキシン-1、ジノフィストキシン-2の検出値に係数を乗じた値の総和のことを言います。

(ク) ふぐ毒

ふぐ加工製品(ふぐ刺し、ふぐちり材料パック入り等)4検体のふぐ毒の検査を実施しましたが、すべて検出限界値(5.25MU/g)未満でした。なお、MUとはマウスユニットのことで、貝およびフグ等様々な毒素の影響量に対する単位のことを言います。(P.36)

イ 細菌検査

(ア) 規格基準の定められた食品

生食用かき、生食用鮮魚介類、魚肉ねり製品、食肉製品、冷凍食品、アイスクリーム等について検査を実施しました。アイスクリーム類 2 検体について大腸菌群が陽性でした。(P.19)

(イ) 規格基準の定められていない食品等

a 衛生規範の定められた食品

そうざい類や洋生菓子など、衛生規範で生菌数などの指導基準が定められている食品について検査を実施しました。生めん 1 検体について、E.coli 陽性、サラダ類 3 検体について細菌数超過となり衛生規範不適合でした。(P.19)

b その他

生食用及び加熱用かきについては、規格基準検査と同時に43検体のノロウイルス検査を実施しましたが、陽性となった検体はありませんでした。(P.19)

活魚水槽水(市場せり場内及び仲卸の店頭に設置)の検査は、活魚の多くが生食用に供されるため、これら使用水の食中毒菌汚染状況の把握を主目的として、海水、海水ろ過水とともに検査を実施し、二次汚染防止に努めています。

生食用の貝類(舌切・小柱・アオヤギ等)、魚類(刺身用切り身、まぐろなど)及びウニ等については、規格基準項目に加えて食中毒菌も検査を実施し、取扱いについて注意を喚起しました。

(3) 違反食品等

食品表示法に関する違反を1件発見しました。
この食品には流通防止等の対応を図りました。(P.37)

(4) 相談対応

食品等の相談件数は 117 件ありました。(主な事例:P.37)

(5) 食品衛生検査所等の業務管理基準(GLP)

平成9年度から導入されたGLP(Good Laboratory Practice)に基づき、検査の精度管理を実施しました。
外部精度管理、内部精度管理あわせて 115 項目を実施しました。(P.17)

2 平成30年度主要業務一覧

(1) 収去検査関係業務

検査分類	主な対象品目	担当	実施期間
生食用鮮魚介類	小柱、舌切等	細菌	5月から3月
輸入鮮魚介類	エビ、ウニ、アカガイ、ヒラメ等	細菌、理化学	4月から11月、1月から3月
養殖魚介類の動物用医薬品	エビ、タイ、ブリ、ウナギ蒲焼等	理化学	6月、7月、9月、11月
養殖魚介類の抗菌性物質	エビ、タイ、ブリ、ウナギ蒲焼等	理化学	6月、7月、9月、11月
魚卵類	イクラ、タラコ、カズノコ等	細菌、理化学	6月、9月、11月、12月
生かき	かき、岩かき	細菌	7月、10月から1月
魚介類の水銀	タイ、ヒラメ、イカ等	理化学	4月から7月、9月から3月
魚介類のPCB(注釈1)	タイ、ヒラメ、イカ等	理化学	6月、12月
酸化防止剤	煮干、めざし、干柿等	理化学	8月から9月、12月から2月
貝類毒性	ホタテ、アカガイ、ハマグリ等	理化学	4月から9月、3月
ふぐ加工製品毒性	ふぐさし、ふぐちり等	理化学	12月
寄生虫	ヒラメ	細菌	5月、8月から3月
魚介類加工食品	魚肉練製品、佃煮、ゆでだこ等	細菌、理化学	通年
活魚水中の細菌	いけす水、ろ過海水	細菌	通年
氷雪	魚介類保存用氷雪	細菌	7月、8月、10月
放射性物質	農水産物	理化学	通年
放射性物質(持込)	乳幼児製品、飲料水等	理化学	6月、8月、10月、11月、1月
残留農薬	国産農作物、輸入農作物	理化学	通年
防かび剤	輸入柑橘類	理化学	通年
生食用野菜	刺身のつま、カット野菜等	細菌	4月、9月、1月
野菜豆類等加工食品	煮豆	細菌、理化学	5月、10月
漬物(野菜)	たくわん、刻みショウガ等	細菌、理化学	4月、8月から10月、1月、3月
本場市場内加工調理品	卵焼、弁当、調理パン等	細菌	4月、8月、9月、1月
南部市場内調理品	調理済み品、そうざい等	細菌	6月、1月、3月
そうざい、菓子等	餃子、焼売、和菓子、洋生菓子等	細菌、理化学	5月、8月、10月、11月、1月から3月
鶏卵	生卵	細菌、理化学	10月、11月、2月
食肉製品等	ハム、ウインナー、スパム等	細菌、理化学	8月、9月、2月
夏期一斉	輸入食品等	細菌、理化学	7月
年末一斉	輸入食品等	細菌、理化学	12月
センター持込	輸入食品等	細菌、理化学	5月から12月
局専門監視班持込	アイス、フルーツ、生食用カキ等	細菌	7月、8月、11月から3月
局専門監視班持込	検査、フキトリ等	細菌	4月、7月、9月、1月、2月

注釈1) 検査は衛生研究所にて実施

(2) 監視指導業務

業務名	実施期間
魚介類販売の一斉監視指導	7月から8月、11月から12月
魚介類行商の一斉監視指導	8月
秀級施設の推進事業	8月から11月
表示点検	通年
学校給食用物資納入業者の監視指導	6月から10月
食中毒予防月間	8月
ホタテガイ等二枚貝の監視指導	通年

(3) 講習会、会議等

業務名	実施期間
食品衛生責任者講習会	9月、3月
消費者衛生教育	通年
首都圏5都市市場検査所連絡会議	5月、2月
全国市場衛生検査所協議会関係	6月、11月

3 平成30年度監視業務実績

許可営業業種	本場 対象施設数	本場 監視件数	南部 対象施設数	南部 監視件数
飲食店 一般食堂	10	0	6	1
飲食店 レストラン	0	0	1	0
飲食店 すし屋	2	0	0	0
飲食店 そば屋	1	0	0	0
飲食店 中華料理店	0	0	1	0
飲食店 給食食堂	5	0	3	0
飲食店 軽飲食	4	0	2	0
飲食店 弁当屋	1	0	1	1
飲食店 そうざい	0	0	3	1
飲食店 自動販売機による営業	0	0	3	0
菓子製造業	1	0	0	0
魚介類販売業	92	160	43	8
魚介類販売業 冷凍包装	11	5	3	1
魚介類販売業 冷蔵包装	1	0	1	0
魚介類販売業 冷凍又は冷蔵包装	3	1	4	1
魚介類せり売営業	2	0	0	0
魚肉ねり製品製造業	1	2	0	0
食品の冷凍又は冷蔵業	13	6	10	4
喫茶店	1	0	0	0
喫茶店 カップ式自動販売機	14	2	5	0
乳類販売業 専業販売	1	1	0	0
乳類販売業 店頭販売	4	1	5	1
乳類販売業 自動販売機による営業	3	0	2	0
食肉処理業	1	1	1	1
食肉販売業	2	1	2	2
食肉販売業 冷凍包装	9	6	3	0
食肉販売業 冷蔵包装	1	0	2	0
食肉販売業 冷凍又は冷蔵包装	5	5	2	0
醤油製造業	0	0	1	0
そうざい製造業	7	5	2	2
ソース類製造業	0	0	0	0
缶詰又は瓶詰食品製造業	0	0	0	0
冰雪製造業	1	0	0	0
冰雪販売業	1	0	1	0
魚介類行商	6	5	10	0
魚介類加工業	9	8	7	3
発酵乳等販売業	1	0	1	0
計	213	209	125	26

報告営業業種	本場 対象施設数	本場 監視件数	南部 対象施設数	南部 監視件数
工場・事業所給食	1	0	0	0
食品製造業	6	0	3	0
野菜・果物販売業	43	9	31	1
そうざい販売業	1	0	9	0
菓子販売業	1	0	11	0
弁当類販売業	1	0	2	0
酒類販売業	0	0	2	0
食品販売業	37	7	28	3
器具・容器包装・おもちや製造販売業	4	0	5	0
計	94	16	91	4

集計項目	本場	南部	計
許可・報告営業監視件数和	225	30	255
食品表示等監視件数	7,691	5,984	13,675
計(総監視件数)	7,916	6,014	13,930

4 平成30年度食品別検査状況

食品分類	取去検体数	検査項目数(総数)	検査項目数(理化学)	検査項目数(細菌)	検査項目数(表示)	検査項目数(その他)	衛生研究所搬入検体数	違反件数(項目数)総数	違反件数(項目数)理化学	違反件数(項目数)細菌	違反件数(項目数)表示	違反件数(項目数)監視	行政処分件数(総数)	行政処分件数(座席処分)	行政処分件数(返品処分)	行政処分件数(営業の業停止)	行政処分件数(その他)	行政指導措置等件数	衛生規範不適合件数
魚介類	324	1,938	1,562	322	54	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無加熱標取冷凍食品(冷凍食品)	8	36	0	30	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
凍結直前に加熱された加熱後標取冷凍食品(冷凍食品)	6	117	94	18	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
凍結直前未加熱の加熱後標取冷凍食品(冷凍食品)	3	58	47	9	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生食用冷凍鮮魚介類(冷凍食品)	10	47	0	40	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
魚介類加工品(かん詰、びん詰を除く)	598	4,507	2,759	1,497	251	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
肉、卵類及びその加工品(かん詰、びん詰を除く)	39	1,544	1,362	156	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
乳製品及び乳類加工品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
穀類及びその加工品(かん詰、びん詰を除く)	47	182	0	141	41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野菜類、果実類及びその加工品(かん詰、びん詰を除く)	247	23,457	23,247	142	68	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
菓子類	67	697	468	192	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
清涼飲料水	12	288	240	36	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
氷雪	29	87	0	87	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水	197	591	0	591	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
かん詰、びん詰食品	13	207	182	12	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の食品	179	1,333	702	540	91	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
器具及び容器包装	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	1,779	35,089	30,663	3,813	613	0	10	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0
福祉保健センター等依頼検査(フキヤトを除く)	集計対象外	4,843	3,971	872	集計対象外	集計対象外	集計対象外	集計対象外	集計対象外	集計対象外	集計対象外	集計対象外	集計対象外	集計対象外	集計対象外	集計対象外	集計対象外	集計対象外	集計対象外
精度管理検査	集計対象外	115	66	49	集計対象外	集計対象外	集計対象外	集計対象外	集計対象外	集計対象外	集計対象外	集計対象外	集計対象外	集計対象外	集計対象外	集計対象外	集計対象外	集計対象外	集計対象外
総計	1,779	40,047	34,700	4,734	613	0	10	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0

食品分類	取去検体数	検査項目数(総数)	検査項目数(理化学)	検査項目数(細菌)	検査項目数(表示)	検査項目数(その他)	衛生研究所搬入検体数
調理器具等フキヤト検査	集計対象外	0	0	0	0	0	0
福祉保健センター等依頼検査(フキヤト)	集計対象外	185	0	185	集計対象外	集計対象外	集計対象外
総計	集計対象外	185	0	185	0	0	0

5 平成30年度食品分類別・項目別検査状況

(1) 理化学検査実施項目数

食品分類	合成甘味料検査(注釈2)	着色料検査(注釈2)	合成保存料検査(注釈2)	酸化防止剤検査(注釈2)	発色剤検査(注釈2)	漂白剤検査(注釈2)	防かび剤検査(注釈2)	放射性物質検査	残留農薬検査	動物用医薬品検査	重金属PCB検査	貝毒フグ毒検査	不揮発性アミン検査	計
魚介類	0	0	51	0	0	0	0	280	0	1,101	55	64	1	1,552
冷凍食品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
冷凍食品(凍結直前に加熱された加熱後採取冷凍食品)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	94	0	0	0	94
冷凍食品(凍結直前未加熱の加熱後採取冷凍食品)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	0	0	0	47
冷凍食品(生食用冷凍鮮魚介類)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
魚介類(加工品)(かん詰、びん詰を除く)	13	1,784	536	25	27	16	0	0	0	188	0	4	166	2,759
肉、卵類及びその加工品(かん詰、びん詰を除く)	0	198	54	0	18	0	0	0	0	1,092	0	0	0	1,362
乳製品(加工品)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
穀類及びその加工品(かん詰、びん詰を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野菜類、果実類及びその加工品(かん詰、びん詰を除く)	59	451	125	6	0	3	10	60	22,533	0	0	0	0	23,247
菓子類	2	363	102	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	468
清涼飲料水	12	132	96	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	240
氷雪(注釈3)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水(注釈4)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
かん詰、びん詰食品	0	143	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	182
その他の食品	0	462	219	0	0	11	0	10	0	0	0	0	0	702
器具及び容器包装	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	86	3,533	1,222	31	45	31	10	350	22,533	2,522	55	68	167	30,653
福祉保健センター等からの依頼	79	858	264	42	21	13	0	78	2,616	0	0	0	0	3,971
精度管理検査	8	0	21	0	8	0	0	0	8	5	8	8	0	66
総計	173	4,391	1,507	73	74	44	10	428	25,157	2,527	63	76	167	34,690

注釈2:食品添加物

注釈3:主に、魚介類を冷やすために使われる、食用ではない氷を検査しています。

注釈4:主に活魚用水槽内飼育水と市場周辺の海水を検査しています。

(2)細菌検査実施項目数

食品分類	一般生菌数検査	大腸菌群検査	E.coli検査(注釈5)	E.coli最確数検査	黄色ブドウ球菌検査	サルモネラ属菌検査	クロストリジウム属菌検査	腸炎ビブリオン最確数検査	腸炎ビブリオン最確数検査	ノロウイルス検査	クドア検査	計
魚介類	70	0	40	30	70	0	0	15	55	25	17	322
冷凍食品(無加熱採取冷凍食品)	8	8	0	0	8	0	0	1	5	0	0	30
冷凍食品(凍結直前に加熱された加熱後採取冷凍食品)	6	6	0	0	6	0	0	0	0	0	0	18
冷凍食品(凍結直前未加熱の加熱後採取冷凍食品)	3	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	9
冷凍食品(生食用冷凍鮮魚介類)	10	10	0	0	10	0	0	0	10	0	0	40
魚介類(加工品)(かん詰、びん詰を除く)	435	107	328	0	435	0	0	191	1	0	0	1497
肉、卵類(加工品)(かん詰、びん詰を除く)	39	2	37	0	39	37	2	0	0	0	0	156
乳製品(加工品)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
穀類(加工品)(かん詰、びん詰を除く)	47	17	30	0	47	0	0	0	0	0	0	141
野菜類、果実類(加工品)(かん詰、びん詰を除く)	46	0	46	0	46	0	0	4	0	0	0	142
菓子类	64	64	0	0	64	0	0	0	0	0	0	192
清涼飲料水	12	12	0	0	12	0	0	0	0	0	0	36
氷雪(注釈6)	29	29	0	0	29	0	0	0	0	0	0	87
水(注釈7)	197	0	197	0	0	0	0	197	0	0	0	591
かん詰、びん詰食品	3	0	3	0	3	0	0	3	0	0	0	12
その他の食品	171	0	171	0	171	1	0	26	0	0	0	540
器具及び容器包装	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	1140	255	855	30	943	38	2	437	71	25	17	3813
福祉保健センター等からの依頼検査(フキトリを除く)	326 (うち違反または不適合事例数3)	112 (うち腸菌数2)	183 (うち腸菌数1)	17	191	23	1	1	0	18	0	872
精度管理検査	31	2	4	0	4	4	0	4	0	0	0	49
調理器具等フキトリ検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福祉保健センター等からの依頼検査(フキトリ)	89	33	33	0	30	0	0	0	0	0	0	185
総計	1586	402	1075	47	1168	65	3	442	71	43	17	4919

備考:最確数とは統計学的に最も確からしい数値のことです。

注釈5:大腸菌を含む。

注釈6:主に、魚介類を冷やすために使われる、食用ではない氷を検査しています。

注釈7:主に活魚用水槽内飼育水と市場周辺の海水を検査しています。

(3) 食品中の放射性物質

ア 水産物(市場買取分)

セシウム検出値、合計:1kgあたりのベクレル数

No.	品名	水揚げ 都道府県	漁獲水域	買取日	セシウム-134 検出値	セシウム-137 検出値	セシウム合計
1	アカカマス	千葉県	千葉県沖鴨川港	1月11日	不検出	不検出	不検出
2	アカガレイ	岩手県	岩手県沖宮古港	12月26日	不検出	不検出	不検出
3	ウスメバル	青森県	青森県沖大間港	6月8日	不検出	不検出	不検出
4	ウスメバル	青森県	青森県沖大間港	6月29日	不検出	不検出	不検出
5	ウスメバル	北海道	北海道沖函館港	7月6日	不検出	不検出	不検出
6	ウスメバル	青森県	青森県沖大間港	7月13日	不検出	不検出	不検出
7	ウスメバル	青森県	青森県沖大間港	10月26日	不検出	不検出	不検出
8	ウマヅラハギ	岩手県	三陸北部沖大船渡港	4月20日	不検出	不検出	不検出
9	カツオ	千葉県	千葉県沖勝浦港	4月13日	不検出	不検出	不検出
10	カツオ	千葉県	千葉県沖勝浦港	5月18日	不検出	不検出	不検出
11	カツオ	宮城県	太平洋沖気仙沼港	5月25日	不検出	不検出	不検出
12	カツオ	千葉県	千葉県沖勝浦港	7月13日	不検出	不検出	不検出
13	カツオ	宮城県	宮城県沖気仙沼港	7月20日	不検出	不検出	不検出
14	カツオ	宮城県	宮城県沖気仙沼港	8月2日	不検出	不検出	不検出
15	カツオ	千葉県	千葉県沖勝浦港	8月31日	不検出	不検出	不検出
16	カツオ	宮城県	宮城県沖気仙沼港	9月28日	不検出	不検出	不検出
17	カツオ	千葉県	千葉県沖勝浦港	2月8日	不検出	不検出	不検出
18	キアンコウ	青森県	青森県沖八戸港	11月30日	不検出	不検出	不検出
19	キアンコウ	青森県	青森県沖八戸港	1月18日	不検出	不検出	不検出
20	キチジ	岩手県	三陸北部沖宮古港	5月11日	不検出	不検出	不検出
21	キチジ	青森県	青森県沖八戸港	4月13日	不検出	不検出	不検出
22	キツネメバル(真ソイ)	岩手県	岩手県沖宮古港	12月26日	不検出	不検出	不検出
23	キンメダイ	千葉県	千葉県沖勝浦港	4月13日	不検出	不検出	不検出
24	キンメダイ	千葉県	千葉県沖勝浦港	4月27日	不検出	不検出	不検出
25	キンメダイ	千葉県	千葉県沖船形港	8月10日	不検出	不検出	不検出
26	キンメダイ	千葉県	千葉県沖勝浦港	10月26日	不検出	不検出	不検出
27	キンメダイ	千葉県	千葉県沖勝浦港	11月30日	不検出	不検出	不検出
28	キンメダイ	千葉県	千葉県沖銚子港	12月26日	不検出	不検出	不検出
29	クロガレイ	北海道	北海道沖標津港	6月22日	不検出	不検出	不検出
30	クロムツ	千葉県	千葉県館山沖船形港	7月6日	不検出	不検出	不検出
31	コノシロ(コハダ)	千葉県	東京湾船橋港	1月25日	不検出	不検出	不検出
32	ゴマサバ	神奈川県	三浦半島沖佐島漁港	7月20日	不検出	不検出	不検出
33	サクラマス	青森県	青森県沖下北港	3月15日	不検出	不検出	不検出

No.	品名	水揚げ 都道府県	漁獲水域	買取日	セシウム-134 検出値	セシウム-137 検出値	セシウム合計
34	サケ	青森県	青森県沖八戸港	8月31日	不検出	不検出	不検出
35	サケ	青森県	青森県沖八戸港	10月26日	不検出	不検出	不検出
36	サケ	青森県	青森県沖八戸港	10月5日	不検出	不検出	不検出
37	サワラ	宮城県	三陸南部沖石巻港	9月7日	不検出	不検出	不検出
38	サワラ	宮城県	三陸北部沖大船渡港	10月12日	不検出	不検出	不検出
39	サワラ	宮城県	三陸北部沖釜石港	11月2日	不検出	不検出	不検出
40	サワラ	千葉県	千葉県沖銚子港	2月22日	不検出	不検出	不検出
41	サンマ	宮城県	北海道沖気仙沼港	8月31日	不検出	不検出	不検出
42	サンマ	宮城県	北海道沖石巻港	9月28日	不検出	不検出	不検出
43	サンマ	宮城県	北海道沖石巻港	11月2日	不検出	不検出	不検出
44	サンマ	宮城県	宮城県沖気仙沼港	11月9日	不検出	不検出	不検出
45	シログチ(イシモチ)	宮城県	宮城県沖石巻港	9月14日	不検出	不検出	不検出
46	ジンドウイカ(ヒイカ)	宮城県	宮城県沖石巻港	5月18日	不検出	不検出	不検出
47	ジンドウイカ(ヒイカ)	宮城県	宮城県沖石巻港	6月8日	不検出	不検出	不検出
48	スケトウダラ	宮城県	三陸南部沖石巻港	4月20日	不検出	不検出	不検出
49	スズキ	千葉県	千葉県沖銚子港	5月25日	不検出	4.01	4.01
50	スズキ	神奈川県	神奈川県沖松輪港	1月11日	不検出	不検出	不検出
51	スズキ	宮城県	三陸南部沖石巻港	3月28日	不検出	0.916	0.916
52	スズキ(フッコ)	千葉県	東京湾船橋港	9月28日	不検出	不検出	不検出
53	トビウオ	千葉県	千葉県沖館山港	6月22日	不検出	不検出	不検出
54	ニシン	北海道	北海道沖根室港	4月20日	不検出	不検出	不検出
55	ニシン	北海道	北海道沖根室港	12月14日	不検出	不検出	不検出
56	ニシン	青森県	青森県沖八戸港	1月18日	不検出	不検出	不検出
57	ネズミザメ(モウカサメ)	宮城県	宮城県沖気仙沼港	8月10日	不検出	不検出	不検出
58	ネズミザメ(モウカサメ)	宮城県	三陸南部沖気仙沼港	3月28日	不検出	不検出	不検出
59	ババガレイ(ナメタガレイ)	青森県	青森県沖八戸港	4月27日	不検出	不検出	不検出
60	ババガレイ(ナメタガレイ)	青森県	青森県沖八戸港	6月29日	不検出	不検出	不検出
61	ババガレイ(ナメタガレイ)	青森県	青森県沖八戸港	1月25日	不検出	不検出	不検出
62	ババガレイ(ナメタガレイ)	宮城県	宮城県沖石巻港	2月8日	不検出	不検出	不検出
63	ババガレイ(ナメタガレイ)	青森県	青森県沖八戸港	3月8日	不検出	不検出	不検出
64	ババガレイ(ナメタガレイ)	宮城県	宮城県沖石巻港	3月15日	不検出	不検出	不検出
65	ヒラメ	青森県	青森県沖八戸港	5月18日	不検出	不検出	不検出
66	ヒラメ	青森県	青森県沖下北港	6月29日	不検出	不検出	不検出
67	ビンナガマグロ	宮城県	宮城県沖気仙沼港	7月20日	不検出	不検出	不検出

No.	品名	水揚げ 都道府県	漁獲水域	買取日	セシウム-134 検出値	セシウム-137 検出値	セシウム合計
68	ビンナガマグロ	千葉県	千葉県沖銚子港	3月8日	不検出	不検出	不検出
69	ビンナガマグロ	宮城県	宮城県沖塩釜港	6月8日	不検出	不検出	不検出
70	ブリ	北海道	北海道沖羅臼港	9月7日	不検出	不検出	不検出
71	ブリ	北海道	北海道沖噴火湾森港	10月12日	不検出	不検出	不検出
72	ブリ(イナダ)	宮城県	三陸南部沖石巻港	9月7日	不検出	不検出	不検出
73	ブリ(イナダ)	青森県	青森県沖八戸港	10月5日	不検出	不検出	不検出
74	ブリ(ワラサ)	千葉県	房総沖鴨川港	5月11日	不検出	不検出	不検出
75	ブリ(ワラサ)	千葉県	千葉県館山沖船形港	7月6日	不検出	不検出	不検出
76	ブリ(ワラサ)	千葉県	千葉県沖銚子港	11月2日	不検出	不検出	不検出
77	ブリ(ワラサ)	岩手県	岩手県沖宮古港	12月7日	不検出	不検出	不検出
78	ホウボウ	宮城県	宮城県沖塩釜港	6月8日	不検出	不検出	不検出
79	マアジ	神奈川県	神奈川県沖三崎港	5月11日	不検出	不検出	不検出
80	マイワシ	宮城県	三陸南部沖石巻港	5月25日	不検出	不検出	不検出
81	マイワシ	宮城県	三陸南部沖石巻港	6月22日	不検出	不検出	不検出
82	マイワシ	北海道	北海道沖根室港	8月2日	不検出	不検出	不検出
83	マイワシ	青森県	青森県沖八戸港	9月14日	不検出	不検出	不検出
84	マイワシ	青森県	青森県沖八戸港	9月28日	不検出	不検出	不検出
85	マイワシ	千葉県	千葉県沖銚子港	1月11日	不検出	不検出	不検出
86	マイワシ	千葉県	千葉県沖銚子港	2月1日	不検出	不検出	不検出
87	マイワシ	千葉県	銚子沖銚子港	3月28日	不検出	不検出	不検出
88	マガレイ	北海道	北海道厚岸沖厚岸港	7月6日	不検出	不検出	不検出
89	マガレイ	福島県	福島県沖相馬港	2月1日	不検出	不検出	不検出
90	マコガレイ	青森県	青森県沖八戸港	4月27日	不検出	不検出	不検出
91	マコガレイ	青森県	青森県沖下北港	7月13日	不検出	不検出	不検出
92	マコガレイ	青森県	青森県沖下北港	8月2日	不検出	不検出	不検出
93	マコガレイ	青森県	青森県沖下北港	10月5日	不検出	不検出	不検出
94	マコガレイ	青森県	青森県沖八戸港	11月9日	不検出	不検出	不検出
95	マコガレイ	青森県	青森県沖八戸港	12月14日	不検出	不検出	不検出
96	マサバ	宮城県	三陸南部沖石巻港	5月11日	不検出	不検出	不検出
97	マサバ	宮城県	三陸南部沖石巻港	6月22日	不検出	不検出	不検出
98	マサバ	青森県	青森県沖八戸港	7月13日	不検出	不検出	不検出
99	マサバ	宮城県	三陸南部沖石巻港	11月2日	不検出	不検出	不検出
100	マサバ	青森県	青森県沖八戸港	11月9日	不検出	不検出	不検出
101	マサバ	宮城県	宮城県沖石巻港	12月7日	不検出	不検出	不検出

No.	品名	水揚げ 都道府県	漁獲水域	買取日	セシウム-134 検出値	セシウム-137 検出値	セシウム合計
102	マサバ	青森県	青森県沖八戸港	12月14日	不検出	不検出	不検出
103	マサバ	岩手県	岩手県沖大船渡港	12月26日	不検出	不検出	不検出
104	マサバ	静岡県	静岡県沖焼津港	2月1日	不検出	不検出	不検出
105	マサバ	千葉県	千葉県沖勝浦港	2月22日	不検出	不検出	不検出
106	マダイ	宮城県	三陸南部沖気仙沼港	5月25日	不検出	不検出	不検出
107	マダイ	青森県	青森県沖大間港	8月2日	不検出	不検出	不検出
108	マダイ	青森県	青森県沖大間港	9月14日	不検出	不検出	不検出
109	マダラ	青森県	青森県沖下北港	10月12日	不検出	不検出	不検出
110	マダラ	北海道	北海道沖函館港	12月7日	不検出	不検出	不検出
111	マダラ	青森県	青森県沖八戸港	1月18日	不検出	不検出	不検出
112	マダラ	青森県	青森県沖八戸港	6月29日	不検出	不検出	不検出
113	マダラ	青森県	青森県沖八戸港	8月31日	不検出	不検出	不検出
114	マダラ	宮城県	宮城県沖石巻港	3月15日	不検出	不検出	不検出
115	メカジキ	宮城県	太平洋沖気仙沼港	9月7日	不検出	不検出	不検出
116	メカジキ	宮城県	宮城県沖塩釜港	4月13日	不検出	不検出	不検出
117	メカジキ	宮城県	宮城県沖気仙沼港	5月18日	不検出	不検出	不検出
118	メカジキ	宮城県	岩手県沖気仙沼港	7月20日	不検出	不検出	不検出
119	メカジキ	岩手県	岩手県沖宮古港	8月10日	不検出	不検出	不検出
120	メカジキ	宮城県	宮城県沖塩釜港	10月26日	不検出	不検出	不検出
121	メカジキ	宮城県	太平洋沖気仙沼港	1月25日	不検出	0.824	0.824
122	メバチマグロ	宮城県	宮城県沖塩釜港	4月27日	不検出	不検出	不検出
123	メバチマグロ	宮城県	宮城県沖塩釜港	9月14日	不検出	不検出	不検出
124	メバチマグロ	宮城県	宮城県沖塩釜港	11月9日	不検出	不検出	不検出
125	メバチマグロ	宮城県	宮城県沖塩釜港	10月5日	不検出	不検出	不検出
126	メバチマグロ	宮城県	宮城県沖塩釜港	11月30日	不検出	不検出	不検出
127	メヒカリ	宮城県	三陸南部沖石巻港	2月22日	不検出	不検出	不検出
128	メヒカリ	宮城県	三陸南部沖石巻港	1月25日	不検出	不検出	不検出
129	ヤリイカ	岩手県	三陸北部沖大船渡港	4月20日	不検出	不検出	不検出
130	ヤリイカ	宮城県	三陸南部沖石巻港	10月12日	不検出	不検出	不検出
131	ヤリイカ	宮城県	宮城県沖石巻港	11月30日	不検出	不検出	不検出
132	ヤリイカ	岩手県	岩手県沖宮古港	12月7日	不検出	不検出	不検出
133	ヤリイカ	宮城県	宮城県沖石巻港	12月14日	不検出	不検出	不検出
134	ヤリイカ	宮城県	三陸南部沖石巻港	1月11日	不検出	不検出	不検出
135	ヤリイカ	宮城県	宮城県沖石巻港	1月18日	不検出	不検出	不検出

No.	品名	水揚げ 都道府県	漁獲水域	買取日	セシウム-134 検出値	セシウム-137 検出値	セシウム合計
136	ヤリイカ	宮城県	宮城県沖石巻港	2月8日	不検出	不検出	不検出
137	ヤリイカ	千葉県	千葉県沖銚子港	3月8日	不検出	不検出	不検出
138	ヤリイカ	宮城県	宮城県沖石巻港	3月15日	不検出	不検出	不検出
139	ヤリイカ	茨城県	茨城・日立沖久慈港	3月28日	不検出	不検出	不検出
140	ワカメ(メカブ)	宮城県	三陸南部沖気仙沼港	3月8日	不検出	不検出	不検出

イ 農産物(市場買取分)

セシウム検出値、合計:1kgあたりのベクレル数

No.	品名	生産地	買取日	セシウム-134 検出値	セシウム-137 検出値	セシウム合計
1	イチゴ	栃木県	4月24日	不検出	不検出	不検出
2	イチゴ	栃木県	3月1日	不検出	不検出	不検出
3	インゲン	福島県	10月19日	不検出	不検出	不検出
4	カキ	山形県	11月16日	不検出	不検出	不検出
5	キャベツ	群馬県	6月14日	不検出	不検出	不検出
6	キャベツ	群馬県	8月24日	不検出	不検出	不検出
7	キュウリ	福島県	7月27日	不検出	不検出	不検出
8	キュウリ	福島県	11月16日	不検出	不検出	不検出
9	キュウリ	福島県	6月14日	不検出	不検出	不検出
10	サヤエンドウ	福島県	5月2日	不検出	不検出	不検出
11	ジャガイモ	北海道	11月16日	不検出	不検出	不検出
12	スイカ	千葉県	6月14日	不検出	不検出	不検出
13	ダイコンの根	千葉県	3月1日	不検出	不検出	不検出
14	トマト	福島県	7月27日	不検出	不検出	不検出
15	トマト(ミニトマト)	福島県	9月21日	不検出	不検出	不検出
16	ナス	群馬県	6月14日	不検出	不検出	不検出
17	ナス	福島県	7月27日	不検出	不検出	不検出
18	ナス	栃木県	10月19日	不検出	不検出	不検出
19	ナス	群馬県	5月2日	不検出	不検出	不検出
20	日本ナシ	茨城県	8月24日	不検出	不検出	不検出
21	日本ナシ	福島県	9月21日	不検出	不検出	不検出
22	ハクサイ	茨城県	5月2日	不検出	不検出	不検出
23	ピーマン	茨城県	4月24日	不検出	不検出	不検出
24	ピーマン	岩手県	8月24日	不検出	不検出	不検出
25	ブドウ(デラウェア)	山形県	9月21日	不検出	不検出	不検出
26	ホウレンソウ	茨城県	3月1日	不検出	不検出	不検出
27	ホウレンソウ	岩手県	7月27日	不検出	不検出	不検出
28	ミツバ	千葉県	4月24日	不検出	不検出	不検出
29	リンゴ	青森県	10月19日	不検出	不検出	不検出
30	レタス(サニーレタス)	茨城県	4月24日	不検出	不検出	不検出

ウ 量販店等流通販売品（区福祉保健センター等依頼検査分）

セシウム検出値、合計：1kgあたりのベクレル数

No.	品目	原材料 生産地	適用基準	買取日	セシウム-134 検出値	セシウム-137 検出値	セシウム合計
1	清酒	記載無	一般食品	6月13日	不検出	不検出	不検出
2	米(精米)	記載無	一般食品	6月13日	不検出	不検出	不検出
3	牛乳	記載無	牛乳	6月13日	不検出	不検出	不検出
4	牛乳	記載無	牛乳	6月13日	不検出	不検出	不検出
5	乳飲料	北海道	牛乳	6月13日	不検出	不検出	不検出
6	レトルトパウチ食品	福島県	乳児用食品	6月13日	不検出	不検出	不検出
7	清涼飲料水	記載無	乳児用食品	6月13日	不検出	不検出	不検出
8	清涼飲料水	記載無	一般食品	8月6日	不検出	不検出	不検出
9	味噌	記載無	一般食品	8月6日	不検出	不検出	不検出
10	加工乳	記載無	牛乳	8月6日	不検出	不検出	不検出
11	牛乳	記載無	牛乳	8月6日	不検出	不検出	不検出
12	びん詰食品	記載無	乳児用食品	8月6日	不検出	不検出	不検出
13	レトルトパウチ食品	記載無	乳児用食品	8月6日	不検出	不検出	不検出
14	調製粉乳	記載無	乳児用食品	8月6日	不検出	不検出	不検出
15	もち	記載無	一般食品	8月27日	不検出	不検出	不検出
16	米(精米)	岩手県	一般食品	8月27日	不検出	不検出	不検出
17	牛乳	記載無	牛乳	8月27日	不検出	不検出	不検出
18	牛乳	記載無	牛乳	8月27日	不検出	不検出	不検出
19	清涼飲料水	記載無	乳児用食品	8月27日	不検出	不検出	不検出
20	清涼飲料水	記載無	乳児用食品	8月27日	不検出	不検出	不検出
21	煎餅	記載無	乳児用食品	8月27日	不検出	不検出	不検出
22	しょうゆ	北海道	一般食品	10月9日	不検出	不検出	不検出
23	牛乳	記載無	牛乳	10月9日	不検出	不検出	不検出
24	レトルトパウチ食品	記載無	乳児用食品	10月9日	不検出	不検出	不検出
25	乾めん(そば)	記載無	一般食品	11月7日	不検出	不検出	不検出
26	清涼飲料水	記載無	一般食品	11月7日	不検出	不検出	不検出
27	米(精米)	記載無	一般食品	11月7日	不検出	不検出	不検出
28	牛乳	記載無	牛乳	11月7日	不検出	不検出	不検出
29	牛乳	記載無	牛乳	11月7日	不検出	不検出	不検出

No.	品目	原材料 生産地	適用基準	買取日	セシウム-134 検出値	セシウム-137 検出値	セシウム合計
30	乳飲料	記載無	牛乳	11月7日	不検出	不検出	不検出
31	レトルトパウチ食品	記載無	乳児用食品	11月7日	不検出	不検出	不検出
32	レトルトパウチ食品	記載無	乳児用食品	11月7日	不検出	不検出	不検出
33	乾めん(そうめん)	北海道	乳児用食品	11月7日	不検出	不検出	不検出
34	調製粉乳	記載無	乳児用食品	11月7日	不検出	不検出	不検出
35	調製粉乳	宮城県	乳児用食品	11月7日	不検出	不検出	不検出
36	米(精米)	福島県	一般食品	1月16日	不検出	不検出	不検出
37	米(精米)	記載無	一般食品	1月16日	不検出	不検出	不検出
38	牛乳	記載無	牛乳	1月16日	不検出	不検出	不検出
39	低脂肪牛乳	北海道	牛乳	1月16日	不検出	不検出	不検出
40	レトルトパウチ食品	茨城県	乳児用食品	1月16日	不検出	不検出	不検出
41	清涼飲料水	記載無	乳児用食品	1月16日	不検出	不検出	不検出
42	調製粉乳	記載無	乳児用食品	1月16日	不検出	不検出	不検出

エ 学校給食

セシウム検出値、合計：1kgあたりのベクレル数

No.	品目	原材料 生産地	適用基準	採取日	セシウム-134 検出値	セシウム-137 検出値	セシウム合計
1	牛乳	記載無	牛乳	10月29日	不検出	不検出	不検出
2	牛乳	記載無	牛乳	10月29日	不検出	不検出	不検出
3	米	山形県	一般食品	10月30日	不検出	不検出	不検出
4	米	記載無	一般食品	10月31日	不検出	不検出	不検出
5	牛乳	記載無	牛乳	10月31日	不検出	不検出	不検出

(4) 残留農薬

ア 国産品(市場流通検査分) 検出値、基準値:検体1kgあたりに含まれる農薬のmg数(ppm)

農産物名	生産地	検体数	検出検体数	薬剤名及び検出値(基準値)
アスパラガス	山形県	1	1	ボスカリド0.2(30以下)
イチゴ	栃木県	2	1	クロルフェナピル0.05(5以下) テブフェンピラド0.02(1以下) ルフェヌロン0.03(1以下)
インゲン	山形県	1	0	不検出
インゲン	福島県	1	0	不検出
インゲン	沖縄県	1	0	不検出
カリフラワー	茨城県	3	0	不検出
カリフラワー	熊本県	1	0	不検出
キャベツ	岩手県	1	0	不検出
キャベツ	群馬県	3	0	不検出
キャベツ	千葉県	1	0	不検出
キャベツ	神奈川県	5	0	不検出
キュウリ	岩手県	1	1	メタラキシル及びメフェノキサム0.13(1以下)
キュウリ	山形県	2	1	クロルフェナピル0.02(0.5以下)
キュウリ	福島県	3	1	クロルフェナピル0.06(0.5以下)
キュウリ	埼玉県	3	2	クロルフェナピル0.02(0.5以下) 別検体から プロシミドン0.03(5以下)
キュウリ	千葉県	1	1	フェンピロキシメート0.04(0.5以下) プロシミドン0.3(4以下)
キュウリ	神奈川県	1	1	アゾキシストロビン0.07(1以下)
コマツナ	神奈川県	1	1	クロチアニジン0.06(10以下) チアメトキサム0.02(5以下)
サツマイモ	茨城県	5	0	不検出
サツマイモ	千葉県	4	0	不検出
シシトウ	山形県	1	0	不検出
シシトウ	高知県	1	1	プロシミドン0.02(5以下)
スイカ	千葉県	1	0	不検出
ズッキーニ	長野県	2	1	4-クロルフェノキシ酢酸0.04(0.1以下)
スナップエンドウ	福島県	1	0	不検出
西洋ナシ	山形県	1	1	クレソキシムメチル0.10(5以下) チアクロプリド0.04(2以下) フェンプロパトリン0.10(5以下)
西洋ナシ	福島県	1	1	ボスカリド0.01(3以下)
西洋ナシ	新潟県	1	0	不検出
ダイコンの根	青森県	1	0	不検出
ダイコンの根	山形県	1	0	不検出
ダイコンの根	茨城県	1	0	不検出
ダイコンの根	千葉県	1	0	不検出
ダイコンの根	神奈川県	2	0	不検出

農産物名	生産地	検体数	検出検体数	薬剤名及び検出値(基準値)
チンゲンサイ	茨城県	3	0	不検出
トウガン(ミニトウガン)	神奈川県	1	0	不検出
トマト	群馬県	1	0	不検出
トマト	千葉県	2	2	不検出
トマト	神奈川県	2	0	不検出
トマト(ミニトマト)	宮崎県	1	0	不検出
ナス	群馬県	2	0	不検出
ナス	千葉県	1	1	4-クロルフェノキシ酢酸0.04(0.1以下)
日本ナシ	茨城県	1	1	フェンプロナゾール0.02(0.7以下) フェンプロパトリン0.03(5以下)
ニラ	山形県	1	1	クレソキシムメチル0.11(25以下)
ニラ	茨城県	4	2	アゾキシストロビン0.27(70以下) 別検体から クレソキシムメチル0.06(25以下) クロチアニジン0.04(15以下)
ニンジン	北海道	1	0	不検出
ニンジン	千葉県	1	0	不検出
ネギ	秋田県	1	1	クロチアニジン0.02(1以下)
ネギ	山形県	2	2	アゾキシストロビン0.03(10以下) 別検体から クロチアニジン0.06(1以下)
ネギ	群馬県	1	0	不検出
ネギ	千葉県	2	0	不検出
ハクサイ	茨城県	2	1	ボスカリド0.01(40以下)
ハクサイ	長野県	1	0	不検出
バターナッツ	神奈川県	1	0	不検出
ピーマン	岩手県	1	0	不検出
ピーマン	茨城県	2	2	アゾキシストロビン0.01(3以下) 別検体から クレソキシムメチル0.05(2以下) シフルフェナミド0.01(1以下) ピラクロストロビン0.02(1以下) ボスカリド0.06(10以下) マイクロブタニル0.03(1以下)
ブロッコリー	長野県	1	1	クロチアニジン0.03(1以下)
ミズナ	茨城県	1	0	不検出
メロン	千葉県	1	0	不検出
レタス	岩手県	1	1	トルクロホスメチル0.11(2.0以下)
レタス	茨城県	3	1	クロルフェナピル0.02(20以下)
レタス	長野県	1	1	不検出
レタス	静岡県	1	0	不検出
レタス(サニーレタス)	長野県	1	1	クロチアニジン0.16(20以下)
レタス(サラダ菜)	静岡県	1	1	フルフェノクスロン0.03(10以下)
レンコン	茨城県	2	0	不検出
合計	19	103	33	47

イ 国産品(区福祉保健センター等依頼検査分)

検出値、基準値:検体1kgあたりに含まれる農薬のmg数(ppm)

農産物名	生産地	検体数	検出検体数	薬剤名及び検出値(基準値)
オクラ	神奈川県	1	0	不検出
カブの根	神奈川県	1	0	不検出
キャベツ	神奈川県	1	0	不検出
サツマイモ	神奈川県	1	0	不検出
ジャガイモ	神奈川県	4	0	不検出
トマト	神奈川県	2	0	不検出
ナス	神奈川県	2	0	不検出
日本ナシ	神奈川県	1	1	クレソキシムメチル0.03(5以下)
レタス(リーフレタス)	神奈川県	1	0	不検出
合計	1	14	1	1

ウ 輸入品(市場流通検査分)

検出値、基準値:検体1kgあたりに含まれる農薬のmg数(ppm)

農産物名	生産地	検体数	検出検体数	薬剤名及び検出値(基準値)
アスパラガス	メキシコ	1	0	不検出
オクラ	フィリピン	1	0	不検出
オレンジ	アメリカ	1	1	イマザリル(残農として)0.44(5.0以下) チアベンダゾール(残農として)0.25(10以下)
オレンジ	オーストラリア	1	1	イマザリル(残農として)3.1(5.0以下) イミダクロプリド0.02(0.7以下) チアベンダゾール(残農として)1.9(10以下)
キウイ	チリ	1	0	不検出
キウイ	ニュージーランド	1	0	不検出
グレープフルーツ	アメリカ	1	1	イマザリル(残農として)0.94(5.0以下) クロルピリホス0.04(1以下) ジフルベンズロン0.01(3.0以下) チアベンダゾール(残農として)0.39(10以下) ピラクロストロビン0.03(2以下)
ショウガの根	中国	1	0	不検出
ニンニク	中国	1	0	不検出
ネギ	中国	2	0	不検出
パイナップル	フィリピン	1	0	不検出
パプリカ	韓国	2	2	テトラコナゾール0.22(1以下) 別検体から クレソキシムメチル0.01(2以下) クロルフェナピル0.01(1以下) ボスカリド0.05(10以下)
パプリカ	ニュージーランド	1	0	不検出
レモン	アメリカ	2	2	チアベンダゾール(残農として)0.68(10以下) 別検体から イマザリル(残農として)0.42(5.0以下) チアベンダゾール(残農として)0.36(10以下) フルジオキシニル0.7(10以下)
合計	8	17	7	18

残留農薬検査項目(農薬名)

2-(1-ナフチル)アセタミド	4-CPA(4-クロルフェノキシ酢酸)	BHC	DDT	EPN
MCPB	TCMTB	XMC	アイオキシニル	アクリナトリン
アザコナゾール	アザメチホス	アシフルオルフェン	アジンホスメチル	アゾキシストロビン
アトラジン	アニコホス	アトリン	アラクロール	アラマイト
イサゾホス	イソキサチオン	イソキサチオンオキソン	イソフェンホス	イソプロカルブ
イソプロチオラン	イプロバリカルブ	イプロベンホス	イマザリル	イミダクロプリド
インダノファン	インドキサカルブ	エスプロカルブ	エタメツルフロメチル	エタルフルラリン
エチオフェンカルブ	エチオン	エトキサゾール	エトキシスルフロ	エトフェンブロックス
エトプロホス	エトリンホス	エンドスルファン	エンドリン	オキサジアゾン
オキサジキシル	オキサジクロメホン	オキサミル	オキシカルボキシ	オキシフルオルフェン
オリザリン	カズサホス	カルバリル	カルフェントラブンエチル	カルプロバミド
カルボフラン	キナルホス	キノキシフェン	キノクラミン	キントゼン
クミルロン	クレソキシムメチル	クロキンセツトメキシル	クロゾリネート	クロチアニジン
クロフェンテジン	クロブロップ	クロマゾン	クロマフェノジド	クロメブロップ
クロランスラムメチル	クロリダゾン	クロリムロンエチル	クロルエトキシホス	クロルタールジメチル
クロルピリホス	クロルピリホスメチル	クロルフェナビル	クロルフェンゾン	クロルプロファム
クロロクシロン	クロロネブ	クロロベンジレート	シアナジン	シアノホス
ジウロン	シクラニリド	ジクロスラム	シクロスルファミロン	ジクロトホス
ジクロフェンチオン	ジクロホップメチル	ジクロメジン	ジクロラン	ジクロブロップ
ジスルホト	シニドエチル	シハロホップチル	ジフェナミド	シフルフェナミド
ジフルフェニカン	ジフルベンズロン	シプロジニル	1,1-ジ(4-クロロ-2,2-ビス(4-エチルフェニル)エタン	シメコナゾール
ジメタトリン	ジメチピン	ジメチリモール	ジメチナミド	ジメトエート
ジメトモルフ	ジメトリン	ジメピベレート	シラフルオフェン	スピノサド
スピロキサミン	ターバシル	ダイアジン	ダイムロン	チアクロプリド
チアベンダゾール	チアメキサム	チオベンカルブ	チオト	チフルザミド
テクナゼン	テトラクロルピホス	テトラコナゾール	テトラジホ	テニルクロール
テブコナゾール	テブチウロン	テブフェノジド	テブフェンピラド	テフルトリン
デメトン-S-メチル	テルプトリン	テルブホス	トリアレート	トリクロビル
トリシクラゾール	トリチコナゾール	トリデモルフ	トリブホス	トリフルムロン
トリフルラリン	トリフロキシストロビン	トルクロホスメチル	ナブタラム	ナブリアニリド
ナブプロバミド	ニトタールイソプロビル	ノバルロン	バクプロトラゾール	バラチオン
バラチオンメチル	ハロキシホップ	ハロスルフロメチル	ピコリナフェン	ピフェノックス
ピフェントリン	ピペロホス	ピラクロストロビン	ピラゾスルフロエチル	ピラゾホス
ピラフルフェンエチル	ピリダフェンチオン	ピリフェノックス	ピリフタリド	ピリプチカルブ
ピリプロキシフェン	ピリマカーブ	ピリミノバックメチル	ピリホスメチル	ピリメタニル
ピロキロン	ピンクロブリン	フィプロニル	フェナミホス	フェナリモル
フェニトロチオン	フェノキサニル	フェノキシカルブ	フェノチオカルブ	フェノトリン
フェノプロカルブ	フェンアミド	フェンクロルホス	フェントエート	フェンコナゾール
フェンプロバトリン	フェンプロビモルフ	フェンヘキサミド	フェンメディファム	フサライド
ブタクロール	ブタフェナシル	ブタミホス	ブピリメート	ブプロフェジン
ブラザスルフロ	フラムブロップメチル	フラメトビル	フルアクリピリム	フルキンコナゾール
フルジオキシニル	フルシラゾール	フルトラニル	フルリアホール	フルバリネート
フルフェノクスロン	フルフェンビルエチル	フルミオキサジン	フルマイクロラックペンチル	フルメツラム
フルリドン	ブレチラクロール	ブロシミド	プロチオホス	プロバキサホップ
プロバジン	プロバニル	プロバホス	プロバルギット	プロビザミド
プロピドロキサモン	プロフェノホス	プロボキシル	プロマシル	プロトリン
プロモキシニル	プロモプロピレート	プロモホスエチル	プロモホスメチル	フロラスラム
ヘキサコナゾール	ヘキサジン	ヘキサフルムロン	ヘキシチアゾクス	ペナラキシル
ペノキサコール	ペノキススラム	ヘブタクロル	ペンシクロ	ペンスルフロメチル
ペンゾフェナップ	ペンダイオカルブ	ペンディメタリン	ペンフルラリン	ペンフレセート
ボスカリド	ホスメット	ホメサフェン	ホルクロルフェニユロン	ホルモチオン
ホレート	マラチオン	ミクロプタニル	メカルバム	メソスルフロメチル
メタベンズチアズロン	メタラキシル及びメフェノキサム	メチダチオン	メキシクロール	メキシフェノジド
メスラム	メミノストロビン	メラクロール	メビンホス	メフェンビルジエチル
モノクロトホス	モノリニユロン	ラクトフェン	リニユロン	リンデン
ルフェスロン	計276項目			

農作物によって検査項目は異なります。

(5) 動物用医薬品(抗生物質、合成抗菌剤、ホルモン剤、内寄生虫用剤等)

検出値、基準値:検体1kgあたりに含まれる農薬のmg数(ppm)

品名	検体数	検出数	薬剤名及び検出値(基準値)
うなぎ蒲焼	7	0	不検出
冷凍エビ	8	0	不検出
鶏卵	21	0	不検出
カンパチ(養殖)	4	0	不検出
ヒラメ(養殖)	1	1	オキシテトラサイクリン0.02(0.2以下)
ブリ(養殖)	5	0	不検出
マダイ(養殖)	5	0	不検出
合計	51	1	1

動物用医薬品検査項目(薬剤名)

エトパベート	エリスロマイシン	オキシテトラサイクリン	オキシリニック酸
オフロキサシン	オルビフロキサシン	オルメトプリム	キシラジン
クロピドール	クロルテトラサイクリン	ジアベリジン	ジクラズリル
ジフルベンズロン	ジフロキサシン	スルファエトキシピリダジン	スルファキノキサリン
スルファクロルピリダジン	スルファジアジン	スルファジミジン	スルファジメトキシ
スルファチアゾール	スルファドキシ	スルファトロキサゾール	スルファニトラン
スルファピリジン	スルファプロモメタジンナトリウム	スルファベンズアミド	スルファメキサゾール
スルファメキシジアジン	スルファメキシピリダジン	スルファメラジン	スルファモノメトキシ
スルフィンキサゾール	スルフィンゾール	ダノフロキサシン	チアベンダゾール(注釈1)
チアムリン	チルミコシン	テトラサイクリン	トリメトプリム
ナリジクス酸	ピランテル	ピリメタミン	ピロリド酸
ファムフル	フェノブカルブ	フルベンダゾール	フルメキン
マルボフロキサシン	メチルプレドニゾロン	モランテル	リンコマイシン
レバミゾール	計53項目		

検査項目は検体により異なります

注釈8:チアベンダゾールの検出値及び基準値は、
畜水産物ではチアベンダゾール及び5-ヒドロキシチアベンダゾールの和
その他ではチアベンダゾールのみ

(6) 水銀

検出値:検体1kgあたりに含まれる水銀のmg数(ppm)

魚 種	検 体 数	検 出 数	検 出 値 範 囲
ア カ カ マ ス	1	1	0.14
ア カ ガ レ イ	1	1	0.04
ウ ス メ バ ル	2	2	0.02~0.03
カ マ ス	1	1	0.02
カ ン パ チ	4	4	0.07~0.11
キ チ ジ	1	1	0.15
ク ロ ソ イ	1	1	0.05
サ ク ラ マ ス	2	2	0.04~0.07
サ ワ ラ	3	3	0.01~0.02
ジンドウイカ(ヒイカ)	1	1	0.02
ス ズ キ	1	1	0.02
ト ビ ウ オ	1	1	0.03
ニ シ ン	2	2	0.03
ババガレイ(ナメタガレイ)	2	2	0.05~0.09
ヒ ラ メ	2	2	0.03
ブ リ	7	7	0.07~0.12
ホ ウ ボ ウ	1	1	0.02
マ ア ジ	2	2	0.03~0.06
マ イ ワ シ	3	3	0.02
マ コ ガ レ イ	3	3	0.02~0.04
マ サ バ	1	1	0.11
マ ダ イ	8	8	0.07~0.29
マ ツ カ ワ	1	1	0.05
メ ゴ チ	1	1	0.04
ヤ リ イ カ	3	3	0.01~0.02
合 計	55	55	0.01~0.29

備考) 暫定的規制値(0.4ppm)を超える総水銀を検出した検体は、
本市衛生研究所にメチル水銀検査を依頼しています。

(7) PCB

検出値:検体1kgあたりに含まれるPCBのmg数(ppm)

魚種	検体数	検出数	検出値範囲	暫定的規制値
アカカマス	1	1	0.05	3
サワラ	1	0	不検出	3
トビウオ	1	0	不検出	0.5
ホウボウ	1	0	不検出	3
マアジ	1	0	不検出	0.5
マイワシ	2	0	不検出	0.5
マコガレイ	1	0	不検出	3
マサバ	1	0	不検出	0.5
マツカワ	1	0	不検出	3
合計	10	1	0.05	0.5又は3

(8) 貝毒

麻痺性貝毒検出値:検体1gあたりのマウスユニット(注釈9)
下痢性貝毒検出値:検体1kgあたりのmgオカダ酸当量数(ppm)(注釈10)

品名	形態	麻痺性 検体数	麻痺性 検出数	麻痺性 検出値範囲	下痢性 検体数	下痢性 検出数	下痢性 検出値範囲
アカガイ	殻付	8	1	2.17	8	0	不検出
アサリ	むき身	5	0	不検出	5	0	不検出
ハマグリ	殻付	6	0	不検出	6	0	不検出
ホタテガイ	殻付	13	0	不検出	13	1	0.01
合計	殻付むき身	32	1	2.17	32	1	0.01

注釈9:マウスユニットとは、貝およびフグ等様々な毒素の影響量に対する単位のことを言います。

麻痺性貝毒の場合、体重20グラムのマウスが15分で死亡する毒力が1マウスユニットと定義されています。

注釈10:オカダ酸当量とは、測定で得られたオカダ酸、ジノフィシトキシン-1、ジノフィシトキシン-2の検出値に係数を乗じた値の総和のことを言います。

(9) ふぐ毒

検出値:検体1gあたりのマウスユニット(注釈11)

品名	産地	種類	検体数	検出数	検出値範囲
ふぐちり鍋材料	長崎県	トラフグ	1	0	不検出
ふぐ刺し(筋肉)	長崎県	トラフグ	1	0	不検出
ふぐ刺し(皮)	長崎県	トラフグ	1	0	不検出
身欠きふぐ	中国	シロサバフグ	1	0	不検出
合計	2	2	4	0	不検出

注釈11:マウスユニットとは、貝およびフグ等様々な毒素の影響量に対する単位のことを言います。

フグ毒の場合、体重20グラムのマウスが30分で死亡する毒力が1マウスユニットと定義されています。

ふぐ毒検査及び貝毒検査のうちの麻痺性貝毒検査はマウスを使用することが公定法で定められています。

マウスを使用して検査を行うにあたり、動物愛護管理法等に基づき、「動物実験等実施要綱」を定め、「動物実験委員会」を設置、開催しています。

毎年度、動物実験委員会に当該年度の麻痺性貝毒検査におけるマウスの取扱い状況等を報告するとともに、翌年度の検査計画等の妥当性等について承認を得たうえ検査を実施しています。

6 違反食品等

No.	食品	根拠法令	違反等の内容	措置内容
1	紅生姜 (酢漬け)	食品表示法 第5条違反	<ul style="list-style-type: none"> ・輸入者の氏名又は名称の表示欠落 ・名称について「(薄切り)」又は「(刻み)」の表示欠落 ・原材料名の「漬け原材料」の表示不備 	販売者に適正表示後販売指導、製造所を所管する自治体へ通報

7 相談対応(主な事例)

No.	概要	調査結果
1	シルバー(銀ヒラス)西京漬けに付着した異物が何か調べてほしい。	<p>当該異物は全長3センチメートル、幅 1.2 センチメートル程度の平たい楕円形をした虫体であった。</p> <p>胸部が七体節から成っており、第一胸節が頭部と癒合しているなどの特徴より、当該異物は等脚類(タイノエ、ウオノコバン等)であると推定された。</p> <p>等脚類には魚類の口腔内、鰓、ひれ及び体表に寄生するものもあるが、人体に寄生することはない。</p>
2	マダイ切身で筋肉組織中に米粒大の白色異物が点在しているものがある。異物が何かわかるか。	<p>当該異物をつぶし、内部を顕微鏡で確認したところ多数の胞子が確認された。</p> <p>胞子を染色して顕微鏡で観察したところ、4つの極嚢を有した胞子が多数確認された。</p> <p>この結果から、粘液胞子虫類の一種である <i>Kudoa iwatai</i> と推定された。</p> <p><i>Kudoa iwatai</i> については、国内の養殖マダイ、イシガキダイ等への寄生の報告があり、一部では有症事例の報告もある。</p>
3	ハマグリ(ハマグリ)の貝殻表面に付着した異物が何か調べてほしい。	<p>当該異物は半透明無臭の硬質物質であり、半透明の組織及び繊維状の組織が確認された。</p> <p>燃焼試験を行ったところ、プラスチック等を燃焼した際に見られるような形状の軟化は認められず、炭化した。臭気については、薬品臭等は認められず、タンパク質を燃焼させた時と類似した臭気が認められた。</p> <p>以上の結果より、当該異物は生体由来の組織であることが推定され、インターネットの検索結果より殻皮と判明し、貝殻の成長のためのタンパク質の膜であると特定した。</p>

8 衛生教育実施結果

平成 30 年度に、場内の食品関係営業者及び給食施設従事者、並びに一般の見学者等について、講習会等衛生教育を行いました。

両会場の合計は、総回数 14 回、延人数 454 人でした。

会場	食品衛生責任者指定講習会等	消費者等見学者向け衛生教育
本場	177 人(4 回)	218 人(8 回)
南部	59 人(2 回)	なし

9 その他の業務

(1) 環境保全に関する業務

ネズミ、ゴキブリ等衛生害虫駆除の指導

(2) 広報業務

インターネットによる検査情報等の配信

食品衛生関係年表(S58年以降)

昭和58年	2月 9月 12月	●アオブダイの肝で食中毒発生(1名死亡) ●韓国産輸入生うにが原因と思われる食中毒多発 ●「ふぐの衛生確保について」厚生省通達
昭和59年	6月	●辛子蓮根によるボツリヌス食中毒事件発生
昭和60年	4月 8月	●TBTO問題について厚生省通達 ●ジェチレングリコール混入輸入ワイン事件発生
昭和61年	6月 8月 10月	●生鮮野菜等に発色・漂白目的で添加物を使用することの禁止が通達される ●横浜市内でヒメエゾボラのテトラミンによる食中毒が発生 ●「神奈川県ふぐ取扱及び販売条例」改正、届出による「ふぐ加工製品」の販売が可能になる
昭和63年	1月 2月	●シンチレーションサーベイメーターによる放射能測定検査開始 ●EDB暫定規制値改正(パパイヤ、サヤインゲンに加えて、マンゴーにも輸入・移送時の残留を認めない) ●いわゆる「背曲がりブリ」について取扱規制(場内業者あて通知)
平成元年	1月 3月	●輸入ナシフグによると思われる食中毒が散発、厚生省が監視・検査の強化を通達 ●チリ産ブドウのシアン混入事件発生
平成2年	4月 10月	●米国で必須アミノ酸であるL-トリプトファン製造過程で不純物が混入したため利用者に健康障害が多発し、患者1500名、死者21名に達した ●井戸水を原因とする腸管出血性大腸菌による下痢症集団発生 ●洋菓子(ティラミス)によるサルモネラ食中毒事件散発
平成3年	8月	●千葉県と神奈川県でコレラ患者発生
平成4年	3月 4月 11月	●瀬戸内海及び三河湾産アサリが麻痺性貝毒で出荷自主規制 ●広島産の生かきが麻痺性貝毒で出荷自主規制 ●イマザリルが食品添加物として指定された
平成5年	2月 3月 4月 7月 9月 11月	●ナシフグの輸入・販売が禁止された ●食肉製品規格基準改正 ●中国産赤貝から麻痺性貝毒検出 ●横浜市食品監視機動班発足 ●農薬89種類の残留基準制定 ●横浜市でオゴノリによる食中毒発生(死亡者1名)
平成6年	8月	●中国・韓国産生うにの多くから腸炎ビブリオを検出、8月中の入荷を自主規制 ●輸入赤貝から相次いで着色料を検出

平成7年	2月	●米国産リンゴからTBZを検出
	5月	●食品添加物規制の見直し、残留農薬基準値策定の推進、営業許可の見直し等、食品衛生法の大改正
	9月	●国産・輸入ミネラルウォーターにプラスチック片などの異物混入
	10月	●輸入農産物を中心に残留農薬検査を開始
平成8年	3月	●中国産原料うに及びそのうにを使用したうに加工品からホウ酸を検出
	5～12月	●腸管出血性大腸菌O157による食中毒が全国的に発生し、感染者17,877名、健康保菌者1,475名、死者12名に達した
	5月	●乳類、一部の乳製品、食肉製品について総合衛生管理製造過程(HACCP)を経た製造の承認制度が始まる
平成9年	4月	●食品衛生検査施設における適正管理運営基準(GLP)が義務付けられる
	5月	●鮮魚への一酸化炭素の使用問題に対し、厚生省がマグロ、ブリ中の一酸化炭素の検査基準を通知
	6月	●東京都でマレーシア産オイスターソースからボツリヌスA型菌検出 ●大型原油輸送船ダイヤモンドグレース号座礁による東京湾原油流出事故発生
平成10年	6月	●東京都と富山県でイクラ醤油漬を原因とするO157による食中毒事件発生
平成11年	4月	●いか乾製品を原因とするサルモネラ・オラニエンブルグによる食中毒事件が全国的に発生
	10月	●茨城県東海村ウラン燃料加工施設で放射能漏れ事故が発生
	11月	●容器包装に入れられた生食用かきに「採取海域」の表示が義務付けられた ●鶏卵に期限表示などの表示が義務付けられた
平成12年	2月	●横浜市の同一チェーン店でハンバーグステーキを原因とする腸管出血性大腸菌O157による食中毒事件が発生
	6～7月	●雪印乳業(株)大阪工場で製造された低脂肪乳を原因とする黄色ブドウ球菌による食中毒が発生し、発症者は8府県で約6,500名に達した
	7～8月	●全国的に食品に関する苦情件数が前年度を大きく上回った
平成13年	4月	●関東・東北地方で牛タタキ、ローストビーフを原因とする腸管出血性大腸菌O157による集団食中毒が発生する
	7月	●生食用鮮魚介類等の規格基準が設定され、成分規格、保存基準等が施行される
	9月	●千葉県で国内初のBSE感染牛が発見される。翌日より全国で全頭検査を開始
	11月	●西日本を中心に韓国産生カキによる赤痢感染が多発し、輸入禁止となる
平成14年	5月	●中国産冷凍ほうれん草による残留農薬違反が問題となる
	9月	●なし、リンゴ等の農産物に無登録農薬(カプタホール、シヘキサチン)が使用される
平成15年	5月	●食品安全基本法の制定、食品衛生法の大改正が行われる
	9月	●本場マグロ低温卸売場が稼動開始する
平成16年	4月	●横浜市食品衛生監視指導計画に基づく監視指導を開始する
	6月	●南部市場マグロ低温卸売場が稼動開始する
平成17年	7月	●本場冷凍・塩干低温売場が稼動開始する
平成18年	5月	●改正食品衛生法施行に伴いポジティブリスト制度スタート
	8月	●両市場検査所にガスクロマトグラフ質量分析計が導入される
	12月	●ノロウイルスによる食中毒が全国的に大発生する

平成19年	9月	●宮城県で生産された「いかの塩辛」により、腸炎ビブリオによる食中毒事件が全国で散発的に発生する(市内で発生した事件がこの発端となる)
	12月	●フグの不適切な取り扱いによる事故が多発したことから厚生労働省より指導強化の通知が出される
平成20年	1月	●中国産冷凍餃子から農薬メタミドホスが検出され、健康被害が発生する ●茨城県で除毒されていないフグを喫食したことによる死亡事件が発生する
	9月	●両市場検査所にリアルタイムPCR装置が導入される ●中国にて健康被害の原因であったメラミンが混入した食品が輸入される ●非食用に限定された事故米穀を、非食用であることを隠して転売していたことが発覚する
	10月	●中国産冷凍インゲンから農薬ジクロロボスが検出され、健康被害が発生する
平成21年	6月	●新型インフルエンザWHO 警戒水準フェーズ6 世界的流行(パンデミック)
	7月	●神奈川県食の安全・安心の確保推進条例施行(一部平成22年4月1日施行)
	10月	●賞味期限切れ冷凍うなぎ蒲焼きの賞味期限偽装事件が発覚する この冷凍うなぎ蒲焼きからマラカイトグリーンやロイコマラカイトグリーンが検出される
平成22年	4月	●宮崎県で牛の口蹄疫発生
	6月	●えび、かにのアレルギー表示義務化
平成23年	3月	●東日本大震災、福島第一原子力発電所事故の発生
	4月	●ユッケによる腸管出血性大腸菌食中毒事件が発生
	9月	●両市場検査所において食品中の放射性物質検査開始
	10月	●生食用食肉の規格基準が設定される
平成24年	4月	●食品中の放射性物資の基準値が設定される
	7月	●牛肝臓の生食用としての販売提供が禁止
	8月	●浅漬を原因とする腸管出血性大腸菌O157食中毒事件が発生
	10月	●両市場検査所において、ゲルマニウム半導体検出器を用いた放射性物質検査を開始
平成25年	10月	●大手ホテルやデパートの料理でメニューと異なる食材を使う虚偽表示問題が発覚
	12月	●冷凍食品から農薬マラチオンが検出され、健康被害が発生する
	12月	●和食がユネスコ無形文化遺産登録決定
平成26年	1月	●浜松市内の学校で給食のパンを原因とする大規模なノロウイルス食中毒が発生
	7月	●中国の食肉加工会社で期限切れ鶏肉等を日本へ供給していた問題が発生
	7月	●静岡市内で冷やしキュウリによる大規模な腸管出血性大腸菌 O157事件が発生
	12月	●全国的に食品へ異物混入事件が相次ぎ、製造者側では自主回収対応等を実施
平成27年	3月	●南部市場食品衛生検査所が閉所し、本場食品衛生検査所と統合
	4月	●食品表示法施行
	6月	●豚の肉や内臓を生食用として販売提供することが禁止
平成28年	8月	●神奈川県ふぐ取扱い及び販売条例が一部改正され、「ふぐ加工製品」を業として取り扱う場合は、知事の認証を受けなくても届出のみで調理・加工等を認められることとなった
平成29年	2月	●学校給食で提供された刻みのりを原因とする大規模なノロウイルス食中毒が発生
	8月	●関東地方を中心に腸管出血性大腸菌O157 VT2による食中毒が発生
	9月	●新たな加工食品の原料原産地表示制度が始まる
平成30年	6月	●15年ぶりの食品衛生法改正(HACCPに沿った衛生管理の制度化など)
	9月	●26年ぶりに国内で豚コレラ発生
	12月	●年間の最多食中毒発生原因がアニサキスの467件

令和元年12月発行

食品衛生検査所事業概要

横浜市中央卸売市場

本場食品衛生検査所

〒221-0054

横浜市神奈川区山内町1番地

TEL045(441)1153